

うまみきゅうりょうこうえん
馬見丘陵公園と古墳

馬見丘陵公園は、わが国でも有数の古墳群と、良好な自然環境が残された地域にあります。馬見丘陵公園は、この歴史・文化遺産やすばらしい自然環境を憩いの空間として広く活用してもらうことを目的に整備した都市公園です。園内には、馬見丘陵の自然や古墳について、模型や映像等で楽しく学べる公園館を中心に、菖蒲園、バラ園、ダリア園、馬見花苑など四季それぞれの草花がいっぱいです。

はにわ
埴輪とは

古墳の墳丘上に立て並べられた土製品で、土管のような形の円筒埴輪と人物や動物あるいは器財といった具体的な形を示した形象埴輪とに分けられます。この様な埴輪は、馬見古墳群においても数多く発見されています。

一般的に円筒埴輪は、墳頂や墳丘の段部分に接続して立てられています。復元されたナガレ山古墳では、古墳が築かれた当初の埴輪列が再現されています。

具体的な形を示す形象埴輪には、家・盾・蓋・甲・太刀といった器財や様々な服飾スタイルの人物、馬・鹿・犬・猪・鶏・水鳥といった動物埴輪も知られています。

乙女山古墳では後円部に付けられた方形の造り出し上面に、家形埴輪が二棟並べられた状態で発見されています。巢山古墳では濠内部に造られた鳥状遺構に水鳥形埴輪が置かれていました。



復元された埴輪列:ナガレ山古墳

ふくそうひん
副葬品

埋葬された遺体にそえて一緒に葬られる品物を指します。古墳では青銅鏡、玉類、刀や剣、矛、鏃といった武器類、甲や冑といった武具類、勾玉や管玉といった装身具類、土器類、馬具類など、多様な品物が納められています。また、副葬品は古墳の造られた時期を考える資料として重要なものです。



馬見丘陵公園を南側から望む(左手前は広陵町竹取公園、右手前は巢山古墳)



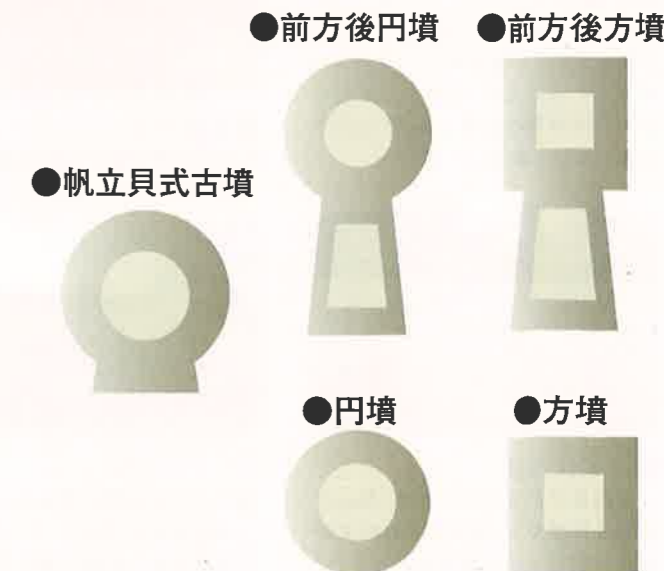
ナガレ山古墳

古墳とは

古墳時代に土を高く盛りあげて築かれた墓を指します。外形から前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳などがあり、前方部が短い帆立貝式古墳なども見られます。

馬見古墳群では前方後円墳として巢山古墳・ナガレ山古墳が、前方後方墳としては新山古墳、方墳には文代山古墳や九僧塚古墳、帆立貝式古墳には乙女山古墳や池上古墳があります。また、亡骸を埋葬する施設の構造には、竪穴式石室、粘土槨、横穴式石室などがあります。

古墳のカクチ



●アクセス

- ・近鉄田原本線 池部駅下車徒歩2分 → 緑道北口(緑道エリア)
- ・近鉄大阪線 五位堂駅より奈良交通バス「馬見丘陵公園」下車



うまみきゅうりょうこうえん
馬見丘陵公園の古墳



奈良県中和公園事務所
 馬見丘陵公園 検索

監修・写真提供 奈良県立橿原考古学研究所
 写真提供 広陵町教育委員会 河合町教育委員会
 編集・発行 奈良県中和公園事務所
 〒636-0062 奈良県北葛城郡河合町大字佐味田2202番地
 TEL.0745-56-3851 FAX.0745-56-3855
<http://www.pref.nara.jp/1780.htm>



ナガレ山古墳

⑥ナガレ山古墳 [国指定史跡]

ナガレ山古墳は、長さ約105mを測る前方後円墳です。現在は発掘調査をもとに復元整備されています。墳丘東側から埴輪列で区画した墳丘へ登る通路が発見されました。また、前方部の上からは、木棺を埋葬した施設が発見されています。墳丘には埴輪や葺石があり、5世紀前半に築かれた古墳です。



土製品

玉類



巢山古墳

⑦巢山古墳 [国指定特別史跡] (公園区域外)

馬見古墳群最大の前方後円墳で、長さ約220mを測ります。後円部の上には、割石を積み上げた竪穴式石室が2つ築かれ、中から石で作られた腕輪や曲玉・管玉が見つっています。墳丘には埴輪を立て並べ、斜面には石を葺いています。濠内の調査で前方部に取り付く出島が見つかりました。遺物から4世紀終わり頃に築かれたものです。



池上古墳

⑧池上古墳

長さ約92mを測る前方部が短い帆立貝式古墳です。墳丘の周りには濠が巡っており、その外側には幅13m程度の堤が築かれています。墳丘には埴輪や葺石が確認でき、5世紀前半に築かれた古墳です。



乙女山古墳

⑨乙女山古墳 [国指定史跡]

乙女山古墳は、前方部が短い帆立貝式古墳の典型として良く知られています。また、長さ約130mと帆立貝式古墳としては国内最大の規模で、墳丘には埴輪列、葺石が見られます。5世紀前半に築かれました。



古墳をじかに観て、登れるのはすごいネ!



⑩倉塚古墳

全長180mの前方後円墳です。発掘調査されていないため詳しいことはわかっていませんが、周囲から発見された円筒埴輪の特徴から5世紀前半に造られたと考えられます。



⑪一本松古墳

4世紀後半に造られた全長130mの前方後円墳です。2006年に後円部の南東側隣接地で発掘調査が行われ、濠の一部と堤が確認されました。



⑫別所下古墳

ナガレ山古墳と乙女山古墳の間にあって、以前は両山古墳と呼ばれていました。4世紀後半に造られた、直径60m、高さ6mの大型円墳です。



⑬狐塚古墳

5世紀前半に造られた全長78mの帆立貝式古墳です。



⑭三吉2号墳

巢山古墳の西側に築かれた全長93mの帆立貝式古墳です。出土した円筒埴輪から巢山古墳に次ぐ時期に築かれたと考えられます。



昔のお墓ってこんなに大きんだ!



⑮カタビ古墳群

別所下古墳と乙女山古墳の間にある4基の円墳と方墳です。1号墳と3号墳が5世紀中頃、2号墳と4号墳が6世紀後半～7世紀前半に築かれました。



⑯ダダオシ古墳

5世紀後半に造られた全長約50mの前方後円墳です。



⑰馬見二ノ谷遺跡

2002年に発見された後期旧石器時代の遺跡で、およそ6,400点の石器類が出土しました。石器の素材は、二上山周辺でとれるサヌカイトがほとんどです。

いろいろな埴輪

※印は阿南辰秀氏撮影



くらいの高い人ほど大きいいんじや



2号墳



1号墳

きたいまち北今市1・2号墳出土の石棺の実物を展示

香芝市北今市にあった、古墳時代後期の円墳から出土した凝灰岩製石棺を、狐塚古墳東側の2箇所の休憩所に移設して展示しています。(A:1号墳の石棺、B:2号墳の石棺)

1号墳は直径約20mの円墳で、横穴式石室の中に組合式石棺が2つ納められていました。石棺の中からは、亡骸と共に副葬されたガラスや琥珀で作られた玉類などが出土しました。また、刀や馬具なども見つっています。2号墳は一辺約15mの方墳で、組合式家形石棺を納めており、中に成人男性と幼児が埋葬されていました。

6世紀後半から7世紀に造られた古墳です。